

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	-	-	-	-
(北陸)		コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・前年比で客単価が上がっているため、前年売上を超えている。春のキャンペーン企画が例年以上にヒットした成果が大きい。
		衣料品専門店（店舗運営）	単価の動き	・3か月連続で客単価が上がっている。安さよりも機能性や品質を重視する傾向がみられる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・イベントなどの効果もあり、車の販売、整備共に計画を達成している。
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・春休み中に桜が散って、来客数は昼も夜も若干減っている。しかし、客単価が例年比105%ほどで推移しているため、売上は微増となっている。特に個人利用による就職祝いや入学祝いの単価が上がっている。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・この冬は雪の影響で悪すぎたが、今月は例年程度に改善している。
		一般レストラン（統括）	来客数の動き	・春になり、大きな学会の開催や新しい施設のオープンなど、人が動くシーンが多くなってきている。春休みやゴールデンウィークなどの観光シーズンによって県外客が多くなり、来客数が前年以上に増えている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・花見帰りの客については期待外れであったが、健康が回復した客が顔を出したり、何とかなっている状態である。ただし、客からは周辺地域が大変に静かだと聞いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は新入社員の歓迎会などがあり、観光客も増えているため、順調に推移している。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・テレビやインターネットサービスの契約数は、前月に続いて順調に増加している。1年前と比較しても高い増加率となっている。
		テーマパーク（役員）	来客数の動き	・1～2月は大雪の影響があり、3月はその風評による影響で悪かったものの、4月に入って前年同月比でややプラスとなっている。国内の旅行客の動きは鈍いものの、インバウンドの動きがプラスとなり、全体でやや良い状況になっている。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・北陸新幹線開業効果が続いているためか、基準地価が上昇している。駅周辺は地価上昇の勢いが止まらないようである。
		住宅販売会社（営業）	お客様の様子	・例年に比べて商談の進捗が速やかである。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・物産展などの催物は、従来のような人出が期待できない。消費を刺激するようなイベントも手詰まり状態である。購買意欲を促すような方法が見当たらない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・長い冬から春の陽気で上向きことを期待しているが、人の動きは例年と変わらない。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	販売量の動き	・社会人の新年度や新学期のシーズンなので、売上は微増している。しかし、前年同月と比較すると売上額は少ない。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	販売量の動き	・悪いわけではないが、特に良いというわけでもない。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・化粧品やインポート雑貨、高級輸入時計など高額品が好調に推移して、全体をけん引している。婦人衣料や紳士衣料の不振をカバーして、売上高は前年超えの見込みである。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・天候が安定したため、来客数の状況は良好である。婦人ファッション衣料の動きが3月に前倒しとなったため、その影響でやや苦戦気味であるものの、化粧品や一部の食品関連は相変わらず好調である。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・高価格帯の商品でも、価値があれば客は購入しているようである。ただし、競合他社とセール品を買い回っている様子は変わらない。時間を費やしてでも安い商品を求めているようであり、強く回復に向かってはいない。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・前年に比べて、相場の影響を受けやすい商材部門での購入点数が落ちている。前年よりもやや高めの価格が影響しているようだが、気温が低くなった影響で春夏商材の動きが悪い。	
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数は伸びていないが、客単価が少し増加している。そのため、売上は維持している。特に4月は気温が高い日があり、売れる商品の変化が大きい。	

スーパー（総務担当）	販売量の動き	・生鮮食品や一般食品の一部で値上がりがあったものの、チラシでの価格訴求を行い、販売量は前年並みに推移している。特に景気に変動はないと考える。
スーパー（統括）	来客数の動き	・来客数が伸び悩み、客単価の動きには変化がない。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数の前月比に大きな変化はない。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・月の後半が天候に恵まれたため、1か月の販売量は何とか確保できている。
衣料品専門店（総括）	販売量の動き	・気温が上がり、実売期にならないと販売量が伸びない。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・客との商談期間が長くなっている。購入に慎重になっている様子が見える。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・4月の販売量は前年同月比90%の見込みである。3か月前の販売量が前年同月比87%であったので、ほぼ変わらない。
自動車備品販売店（役員）	単価の動き	・タイヤ交換の需要が例年より短期集中型になっている。新規購入では安価を希望し、購入を先延ばしにする客が目立つ。交換用品も含めて単価は低い傾向にある。ただし、若干ではあるが前年から電気系統の高額品の動きが多くなっているため、景気判断がしにくい。
住関連専門店（役員）	販売量の動き	・新生活スタートや引っ越し需要も盛り上がりず、横ばいで推移している。
その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・急に暑くなったり、桜が一斉に咲いてすぐに終わってしまったりと、天候が良くなって春らしくない。客の話では、物を買ったりする消費行動に結び付かないとのことである。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・来客数はほぼ前年並みである。これまでと同様に衣料品のトレンドは苦戦しているが、雑貨やホビー、食料品、飲食、アミューズメントが堅調であるため、衣料品のマイナスをカバーしている。客単価や購入率に大きな変化はみられない。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・4月に関しては例年並みの宿泊客数である。売上高も例年並みである。
観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上117%、宿泊人数128%、宿泊単価92%である。大型団体の受注によって、個人客割合が65%から53%に低下したため、宿泊単価は前年を下回っている。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門はインバウンドが堅調だが、国内旅行者の売上が少ない。宴会部門とレストラン部門は、前年並みぎりぎり推移している。
都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・山岳観光ルートが4月15日に開通し、宿泊部門はインバウンドによって前年より若干良い傾向にある。レストラン部門では一部店舗において定休日を設けたため、若干厳しい状況にある。
競輪場（職員）	販売量の動き	・販売量が大きく落ち込むこともなければ、上昇している様子もみられない。
その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	来客数の動き	・年度末開催の子供向け特別教室は何とか集客ができたが、新年度からの入会数が伸び悩んでいる。ただし、体験希望はWeb問合せも含めて順調に進んでいる。
美容室（経営者）	来客数の動き	・2月の豪雪の影響による落ち込みは、3月に8割ほど取り戻した。4月はほぼ前年並みで、残り2割を取り戻せていない。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・高価格物件の販売は伸びがない。特典を付けたり値引きすることが当たり前になってきている。
一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・繁忙期が過ぎて、来客数が減るのは例年のことだが、今年は例年以上に減少している。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・4月に入ってから、観光客や外国人観光客が増えて来客数は多くなっている。しかし、2週目を過ぎた辺りから客の様子は変化している。ゴールデンウィークを控えているため、なかなか購買につながらず苦戦している。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価は微増しているが来客数の落ち込みが大きく、全体的な売上は減少している。この影響は、前月も今月も続いている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・前月から春の好天に恵まれて景気が上向きつつあったが、今月に入って一進一退の状況に逆戻りしている。

	家電量販店（店長）	販売量の動き	・新生活需要が減少している。
	旅行代理店（所長）	販売量の動き	・企業の経費削減により、団体旅行が減少している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・夜の繁華街の仕事が非常に少ない。花見の時期も大したことはない。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・商戦期が終了し、ゴールデンウィーク前でもあるため、客の反応に一服感がみられる。
	x 通信会社（営業担当）	来客数の動き	・来客数が平日平均45組ほどのところ、およそ30組前後しかない。販売量も3割ほど少なくなっている。
企業 動向 関連	-	-	-
(北陸)	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・婦人衣料とスポーツカジュアル衣料共に、生産、受注状況はまあまあ良い状況である。非衣料についても安定している。
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・欧米、国内共に設備投資に積極的であり、受注量が伸びている。
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・輸送業では、現状は荷動きが良くなっている。しかし、ドライバー不足が顕著であり、仕事があっても人手不足のため受注できない状況が続いている。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・大雪期間の外出控えや買い控えの反動により、百貨店や各種小売店で来客数が戻ってきていると取引先から報告を受けている。春の観光シーズン到来によって、インバウンドを中心にホテルや飲食店の売上も全般に好調である。
	税理士（所長）	取引先の様子	・得意先に聞くと、製造業の中でも特に工場の製造設備に関する機械製造については、大手企業の設備投資が非常に好調とのことである。また、輸出も好調で、下請けである中小企業の受注が数か月先まで一杯であるという状態で、製造業は非常に景気が良くなっている。建設業については、1人当たりの労働者に対する単価は確かに上がってきているが、従業員数の確保が難しくなっている。そのため、売上高の拡大は厳しい状況である。一方で、利益率は改善されているようである。
	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・輸出が引き続き好調であり、全体の販売量をリードしている。一方で、好調が続いていた国内コンビニ向けの受注が鈍化している。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況は現状維持で推移している。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注状況は回復傾向にあるものの、原料価格高騰の影響が出てきている。
	精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・国内向けの売上は、全体としてはやや厳しいながら、ほぼ横ばいである。取引先の広域販売の上位30社は堅調であるものの、地方一般店についてはますます厳しくなっている。
	建設業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・当地域では一部に安値受注競争が起きており、受注環境は厳しい局面へと変化している。
	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、受注量が前年同月比で増加している。
	司法書士	取引先の様子	・不動産売買や建物保存登記など、特に不動産登記の相談が少ない。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注状況はなかなか厳しい状態である。基本的には受注の確保に苦労しているのが現状である。また、電気代も含めていろいろとコストアップ要因があり、値段交渉を進めているものの、価格転嫁が難しい状況にある。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注高が前年より30%以上減っている。地域全体としても、同様の傾向である。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・生コンの出荷量が低迷しており、組合から離脱する会社が見られている。単価維持よりも低価格で売上確保する会社が出てきている。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者や個人にいろいろと話を聞いたなかでは、少しずつ動きが出てきている。
	x -	-	-
雇用 関連	-	-	-
	*	*	*
(北陸)	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・派遣システムへの応募者が少ないため、企業とのマッチングができない。

	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・フルタイムの求職者が非常に少ない。平日に別の仕事をして、週末のみの勤務を希望する人が目立つ。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人数がほとんど変わらない。
	新聞社[求人広 告](担当者)	雇用形態の様子	・求人広告の売上が大きく落ち込んでいる。客に確認すると、求人を出しても効果がないと、あきらめ感が強い。人の動きは落ち着いており、大きく状況が変化する様子はない。
	新聞社[求人広 告](営業)	周辺企業の様子	・各業種、業界で活性しているという話が余りない。求人倍率の高いものの、きちんと人手を確保できている話を聞かない。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・3月の新規求人数は全数において4,941人と、前年同月比で15.9%増加している。内訳としては、フルタイムで21.9%、パートでは9.2%の増加となっている。産業別では、建設、製造業、卸売業、小売業、医療福祉において新規求人数が大きく伸びている。製造業の新規求人数では、化学工業と生産用機械器具が大きく伸びている。卸売小売業では、卸売業と小売業が共に大きく伸びている。また、医療福祉においては老人福祉や介護などで大きく伸びている。
	民間職業紹介機 関(経営者)	求人数の動き	・求人数の伸びは鈍化している。ただし、人が集まりにくい職種の求人は継続している。
	学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・求人のために訪れる企業数は、4月に入って前年並みに落ち着いてきたものの、これまでの求人企業数は前年をやや上回っている。
	-	-	-
	x	-	-